

神にあって生きる

現在、教会に来られている方たちにも、神様との出会いがありました。第2回目は、Kさんにその経緯を語っていただきます。

私が、初めて宝塚栄光教会を訪れたのは、今から14年前でした。当時、私は家庭の中の問題に悩んでいました。そして、そのような問題が起きたのは自分のせいだと考え、何とか解決したいと思う一方、自分自身が変わらなければ…という思いで教会の門を叩きました。

礼拝へ出席してみたものの、それだけでは何も変わりませんでした。私は、自分の悩みを誰かに聞いてほしくて、教会へ電話をかけ、牧師夫人に会っていただきました。牧師夫人と話をするうちに、人は誰でも「罪人」であること、イエス・キリストの十字架を信じて悔い改めるなら誰でも聖くなれることを教えてくださいました。こんな私でも、悔い改めれば聖くしていただけるのであれば、そうしたいと強く思いました。

その日、私は牧師夫人に導かれて、神様の前に、自分の罪を悔い改め、最後に牧師夫人から聖書の言葉をいただきました。

「子よ。しっかりしなさい。あなたの罪は赦された。」

こうして、私は救われ、その後洗礼を受け、クリスチャンとなり

ました。しかし実は、私は「救い」がまだよくわかっていなかったのです。悔い改めをしても、それほど喜びはなく、私の心も大きくは変わらず、それどころか心の中にはやっぱり怒りや醜いものが湧いてきます。家庭の問題も相変わらず続いていました。

そんなある日、牧師夫人とお話をさせていただいている中で、大きな勘違いに気づかされ、「イエス様は私の罪を赦すために十字架で血を流してください」ということが、初めて聞いたようにはっきりとわかりました。それからは、私のために十字架についてくださったイエス様のために、罪を犯さずに生きていきたいと心から願うようになりました。

あれから、14年経ちました。願いどおりになったこと、ならなかったこと…振り返ってみると、結局どれをとっても神様への感謝しかありません。ただ思うのは、イエス様はいつも真実なお方であるということです。そして、このイエス様を信じ、私もイエス様に真実を尽くしていきたいと願っています。



教会のひとこま ①

5月の第2日曜日は母の日でした。いつもお世話になっているお母さんに、きれいなお花をプレゼントしました。



教会のひとこま ②

アフリカ・タンザニア宣教師の清水担先生ご家族をお招きし、報告と交わりの時をもちました。先生方は、10年以上の間、現地の方々へ福音を伝えるお働きを続けてこられました。今回の報告では、お働きが実を結んでいる様子をお聞きすることができました。



INFORMATION

入場無料

7/24 (日) 16:00~ チャペルコンサート Vol.42

パワフル&ソウルフル&ジョイフルなゴスペルコンサートをお届けします。今からご予約ください。出演:ジョイフル・ホープ・ゴスペル・クワイヤー

ケアプラン
デイサービス
オリーブの実

お気軽にお問い合わせ・ご相談ください。

「ケアプラン オリーブの実」

☎:0797-73-6055

「デイサービス オリーブの実」

☎:0797-73-6077

宝塚栄光教会

牧師:岩間 洋

〒665-0021 宝塚市中州1-15-9

TEL:0797-73-6076

E-mail: info@takara-eikou.com

http://www.takara-eikou.com

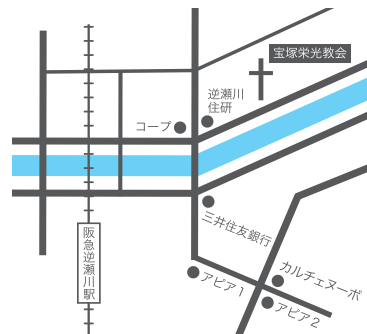
わたしたちは統一教会、ものみの塔(エホバの証人)、モルモン教ではなく正統的なキリスト教会です。もしお困りの方はご相談ください。

希望のダイヤル

毎週更新。24時間つながります。

0797-77-3746

ポッドキャストでも配信! ホームページから利用できます。



2016

6月号 106

宝塚栄光教会

新しい力の源

現代人は忙しすぎると言われます。「忙しい」という文字は、下に「滅亡」の亡という字を書きますから、心が滅びるという意味にもなります。あまり忙しすぎると、心にもゆとりがなくなり、大切なものを失ってしまうことになりかねません。

忙しすぎると、身も心も疲れてきます。人はそれほど強くはありません。限界があります。その限界を越えてしまうと、危険なのです。

聖書にこう書かれています。「しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、驚(わし)のように翼をかって上ることが出来る。走ってもたゆまず、歩いても疲れぬ。」(イザヤ書40章31節)

疲れやすい私たちに、非常に励みになる言葉です。主を待ち望む者、つまりまことの神を信じ、神に信頼する者は、疲れることなく、驚が翼を張って大空を飛びかけるように、力強く生きていくことができるという聖書の約束です。

仕事のノルマに追われて心身ともに疲れている人、人間関係のはざままで傷つき悩ん

でいる人が多い現代社会で、より頼む絶対なる神様を知っている人は、なんと幸いでしよう。

神様は、いつも私たちのことを気にかけていてくださいます。神様は、そのひとり子キリストを十字架におかけになるほど私たちが愛してくださいました。キリストは、私たちの罪のために十字架にかかれ、血を流して死なれました。本当は罪のために滅びなければならない私たちが、救われて、永遠の命を持つ者になるためでした。神様は、私たちがそのように救いたいと願って、いつも私たちに手をさしのべていてくださるのです。

ただ、私たちが自分の罪を悔い改め、キリストの十字架を信じるなら、誰でも罪が赦され、救われるのです。この救いをいただいて、神様に信頼していくなら、体や心がどんなに弱り果てることがあっても、心強いのです。全能の神様に信頼して、希望をもって力強く上っていく人生を、あなたのために神様が備えていてくださいます。



「忘れな草 ―木曾開田高原にて―」

小さな水生植物園は つい見過ごしてしまいそうな場所にあった
そこはのどかな里山の様で 水のほとりには 忘れな草の群生があった
原産はヨーロッパという 忘れな草だが
この土地の気候や地質が 合っていたのか
日本では 長野県と北海道に 野生のものが 育つらしい
昔 嫁いで来た娘が 花嫁道具と一緒に 持ってきた種から
広がったと 伝えられている

その土地の人達によって 整備されて
今や 水路沿い約二〇〇メートルに渡って 群生している
また ここに限らず 小川のほとりや 田んぼ沿いにも
点々と散って 咲き広がっている
種が 散っていったのだ

初夏に 鮮やかな青紫色の 小さな花をつけ始めると
夏の終わりの 九月上旬ぐらいいまで 咲いている

小さな かわいらしい花が 無数に咲き 風に揺らぐ風景は
美しい色合いを見せて 心を慰める
花びら一枚一枚は どれも小さいのだが
小さいからといって 侮れない
根を下ろして しっかり留まったものの 力強さもまた
忘れな草の 可憐さの中に 見るのだ

天の国はからし種に似ている 人がこれを取って畑に蒔けば
どんな種よりも小さいのに 成長すると どの野菜よりも大きくなり
空の鳥が来て 枝に巣を作るほどの木になる